

インクルーシブ教育システムを支える

～特別な支援を必要とする子どもを支える4つの視点と支援の3層構造～



教諭（兼）教育専門監 新目 敏子

通常学級に在籍する特別な支援を必要とする子どもの支援では、自立と社会参加を見据え、(1)～(4)の視点や支援の3層構造を基に、全ての校種や学びの場に共通する指導・支援の充実を目指して、学校（園）全体で取り組んでいきたいものです。

1 特別な支援を必要とする子どもを支える4つの視点

(1) 安心して登校できる学校（園）生活の基盤づくり

学級経営力 + 特別な支援教育の視点（一人一人を理解し、多様性を認め合う支援） → 学級担任中心

(2) 分かる授業（学習支援）・保育の充実

教科の専門性・指導力 + 特別な支援教育の視点（「ユニバーサルデザイン」の視点） → 教科担当中心

(3) 教育活動の工夫・充実

「キャリア教育」の視点～就業体験等体験型の学習実施、ソーシャルスキルトレーニング、ライフスキルトレーニング、コミュニケーション能力のスキルアップ、ICT 機器の効果的な活用等 → 教育活動全体

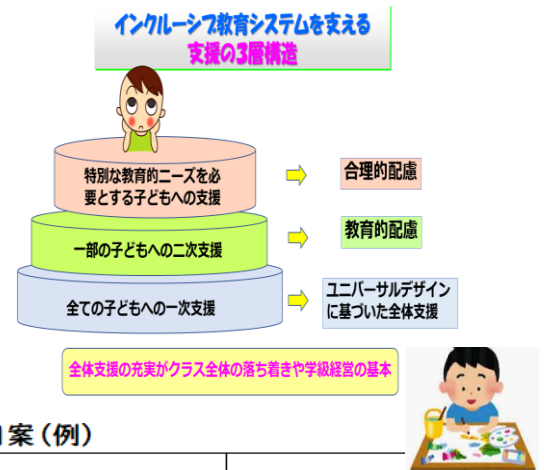
(4) 校内支援委員会による支援体制の推進

「年間計画」や「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」等による計画的・継続的な支援 → 全校体制



2 インクルーシブ教育システムを支える支援の3層構造

通常の学級における支援の3層構造の考え方（右図）では、支援の有無に関わらない全ての子ども全体への一次支援が支援の3層構造を支える土台となります。一次支援が十分に発揮された上で、支援の必要な子どもたちへの多様な手立てをさらに工夫します。下図は保育日案の例です。支援の3層構造を実践するために、**全体的な手立て**と**個別の手立て**を事前に日案に示して計画的な指導・支援を行います。そして、学校（園）生活の中で人的な支援を徐々に減らして一人ですることができるを増やし、自立（律）性を高めていくことが大切です。



園 組 保育指導日案（例）

月 日（ ）	きりん組（年中 男児 名 女児 名 ）		配慮を要する幼児 （○・△・・）	評価 （本時の評価と次回の手立て）
	担任：			
時間	活動内容	予想される反応	環境構成	
			全体への手立て	個別の手立て
8:45～	登園・準備	持ちものの始末をする。	一人一人と挨拶をしながら健康観察をする。	○、△に写真付きのスケジュール表を示す。
9:00～	雪遊び（道具、ままごと、ミニ雪だるま・かまくら作り）	身支度をします。園庭で遊ぶ。道具を片付けて部屋に戻り、着替える。	身支度の順番を絵カードで示す。雪遊び用の道具（バケツ、シャベル等）は仲良く順番に使うように伝える。昨日作った雪だるまやミニかまくらなどを紹介する。5分前に片付けの音楽を流す。帽子等の置き場所を絵カードで示す。	○は担任と身支度をしてバケツに雪をいれてミニかまくら作りをする。△にはいろいろな道具の使い方を示す。
10:15～	クラス「クリスマスツリー制作」・クリスマスソング・クリスマスの話・ミニツリーの制作（ねらい・クリスマスパーティーまでの活動が分かり、シールや絵の具でミニツリーを作る。）	クリスマスパーティーに向けたツリー制作（ツリーの台紙にシールを貼る・絵の具で模様を付ける）。	クリスマスパーティーまでの予定表を掲示して今日の活動を話す。準備物はグループごとにまとめておく。クリスマスソングから始め、終わったら絵本を見て待つまでの手順を視覚的に示し、黒板に掲示する。見本を各グループに置いておく。	○△が見やすいような位置に見本を提示する。台紙にシールと模様の位置が分かるように印を付けておく。



障害理解授業 ～子どもたちや先生方の声より～

本校では、学校間交流や居住地校交流に関わる障害理解授業のほか、各学年の理解度に合わせた障害理解授業の内容を提案しています。(※本校ホームページの「障害理解授業パンフレット」参照)

今年度は、コロナ禍により残念ながら中止となったところもありましたが、小・中学校、高等学校合わせて8校16回の障害理解授業を実施しました。

今回は、たくさんいただいた中からほんの一部ですが、実際に授業を受けた子どもたちの感想や、アンケートに協力いただいた担任の先生方の声を紹介いたします。

・(体験の)ぴかぴかおう
じよさまの きもちが
わかって うれしかった
です。これからも こ
ころのなかに おおき
いめを もちたいです。

小1



・目のふじゆうな人は、てんじや
しるしや音でわかるように
くふうしていることがわかり
ました。

小2



・水の感触、大きい音、電気の明るさが苦
手な人がいるとはじめて知りました。
・相手が何を困っているのかを理解するの
がとても大切だと思いました。

小6



担任の先生方より

【児童の長期的な変容について】

- ・学習の理解や活動の速度に差が出たときに、子どもたちなりに理解し、友達を待ったり助けたりアドバイスしたりする姿が見られるようになった。(小1)
- ・いろいろな友達の個性を受け入れようとする言動が増えた。(小2)
- ・「自分とちょっと違う」ということを「相手の個性」と捉え、寛容に接する姿がさらに高まった。(小6)



【先生ご自身の気持ちの変容、学級経営等に生かされたこと】

- ・子どもが何を得意・不得意としているか、その時々言葉かけや対応についても考えるようになった。(小1)
- ・子どもがどんなことで困っているのか考えることができるようになった。(小6)

感想やアンケートの返答を寄せてくださり、ありがとうございました。障害のある人もない人も共に学び合う共生社会の実現に向けて、今後もよりよい障害理解教育について考えていきたいと思っております。

お気軽にご連絡ください!

ひと月もしないうちに、新しい年度が始まります。特に初めて特別支援学級を担当される先生方は、教室環境や時間割の作り方、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成など、戸惑われることもあるかと思っております。一緒に考えるお手伝いができればと考えていますので、お気軽にご連絡ください。(春休み中のご連絡でも大丈夫です。)



秋田県立支援学校天王みどり学園

TEL:018-870-4611 FAX:018-870-4612

教頭:高橋 省子 教育専門監:新目 敏子 地域支援部:遠藤 美和子

特別支援教育地域センター(男鹿市立船川第一小学校内):月・水・金

TEL:0185-24-3231

特別支援教育アドバイザー[船木 祐子]

